

# 「友人のやさしさとたくましさ」

株式会社特殊製鋼所

総務部次長 猪野 泰史



少し前の話で恐縮ですが、今から6年前のある日、私のもとに1通の手紙が届きました。それは熊本に住んでいる友人からの結婚披露宴の招待状でした。

私は学生時代を熊本県で過ごしました。招待状の送り主は、その頃からの友人です。バイク乗りの彼は卒業後もたびたび高知に遊びに来てくれましたが、私はというと15年前に熊本へ行ったきり、中々行く機会を得られませんでした。そんな折、突然彼からの結婚披露宴の招待状が届いたのです。私としては首を長くして待っていた親友の晴れの席であり、それが久々の熊本訪問となればわくわくしないはずがありません。

出発の日、会社の会議をうわの空でこなした後、半休を使い飛び出るようにそのまま車を西へ走らせました。フェリーで九州上陸後は新しくできた知らない道に戸惑い、知っている道はすべてが懐かしくテンション最高潮のまま国道をひた走り、熊本駅前のホテルに到着したのは夜の11時頃でした。友人が手配してくれた22階の眺望抜群の部屋からは、遠くに熊本城も見ることができました。

翌日はいよいよ楽しみにしていた披露宴です。披露宴では料理が回らないテーブルで一人一人にコース料理が振舞われ、誰一人としてお酌に席を立たないマナーの良さに高知県人として若干戸惑いながらも友人の門出に立ち会えたことに感謝感激したものの、飲み足りない私はその足で以前アルバイトしていた居酒屋にこれまた15年ぶりに顔を出しました。当時私を可愛がってくれた太っちょ大将は昔と変わらない笑顔で迎えてくれ、現役のアパート君たちには「俺が初代バイトリガーだ」と適当なホラを言いつつ、駆け付けてくれた新婚夫婦とともに昔話に花を咲かせた楽しい時間を過ごすことができました。

そんなひと時を過ごし、友人や大将の「また来いよ」の言葉を受け止め高知に戻った1か月後、熊

本をあの大きな地震が襲ったのです。

テレビで見た時は自分の目を疑いました。ほんの1か月前に繁華街から見上げた勇壮な熊本城の無残に変わり果てた姿、そして学生時代によく通っていた阿蘇大橋の崩落。思い出の場所がごとごとく崩壊していたのです。

報道を見ても何もできない自分の無力さを日々感じていた一方、日ごとに落ち着きを取り戻し地震の報道も少なくなってきた頃、SNSで太っちょ大将の近況報告を見かけました。そこには「元気に営業しています」と、とても力強い言葉とともに元気な写真、そして「応援ありがとうございます」の文字が。また、驚いたことに新婚の友人夫婦はお土産をたくさん持って高知まで遊びに来てくれました。会うなり二人は「元気だよ」と笑顔で言いました。「心配してくれた人には元気な姿を見せたかったから」との事。それどころか「お前のくれたバイクの置物、倒れて壊れちゃった」と申し訳なさそうに話す姿に思わず涙がこみ上げました。熊本城を目の当たりにした時涙が出た話や、濁った水道水でお風呂に入った話など、テレビでは伝わらないたくさんの苦労や感情があったこと、色々たくさん聞きました。それでも彼らは「うちなんかまだ良いほうだよ」と、もっと大変な地区があるんだと、そこと比べたら恵まれているんだと語りました。

地震に限らずテレビでは連日胸が痛む多くの出来事が報道されています。そこには必ず前を向き強くたくましく生きている人々の姿が映し出されます。もし自分が困難な出来事に遭遇した時、果たして私は前を向いていられるのか、他人を思いやる心を持っているのか。想像が付きません。いつ起きてもおかしくないとされる南海地震ですが、この地震に関して言えば、しっかりとした備えをしておけば辛く悲しい場面を回避できることはたくさんあるのではないかと思います。会社でも家庭でも万全の備えをしておきたいものです。